

響



ひびき

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
TEL.0267-31-0251
FAX.0267-31-0140



令和3年12月1日
No.6



よく見ると、
いろいろなことが
起きている。

響 第6号「よく見る」 -もくじ-

授業から学ぶ	やっぱり、生きている仲間なんだ 特別の教科 道徳	②
授業から学ぶ	「できる」につながる教師の支援 体育	③
研修の窓	実践を振り返る 仲間から学ぶ 教師力向上研修III	④
考える部屋	子どもの声を聞き取って 「学習問題」を設定しましょう	⑤
考える部屋	みること 捉えること	⑥
生涯学習課より	つながりを広げるヒント	⑦

子どもは、話したり、考えたり、視線を送ったり、耳を傾けたりしながら、体中の感覚を使って取り組んでいるものです。

そんな子どものひと時の姿によくよく目を向けてみると、実に様々な姿で自分を物語ってくれていることに気がつきます。本当に、いろいろなことが起きているのです。



「響ひびき」これまでのバックナンバーはこちらからご覧になれます。
本誌掲載の実践などのより詳しい内容については、事務所までお問い合わせください。



授業から学ぶ
特別の教科 道徳
小3 生命の尊さ



授業の終末にて…



やっぱり、生きている仲間なんだ ～「生命の尊さ」を見つめる～

「生命」には、有限性や連続性、誕生の喜びなど、その尊さを考える様々な視点があります。誰もが感じ理解している生命の尊さを、「命が育つ力」から迫り、生きている仲間を見つめました。



じっと腕を組んで「う～んう～ん」と考えていたAさんは、何かを心に誓ったかのように顔をあげて、「よし！」と力強くうなずいて答えました。

モンシロチョウを育てているAさんの学級にとって、コマユバチは、やっかいものだったはずですが。



□ 教材「生きている仲間」(きみがいちばんひかるとき3年 光村図書) ベランダでトマトを育てはじめたやよいさんは、「はやく大きくなってね」とトマトに話しかけ、トマトを生きている仲間だと感じています。やよいさんは、トマトの周りを歩くアリや、飛んでくるスズメにもお話をするようになり、楽しくなってきました。



やよいさんがどうしてトマトを生きている仲間だと思ったのか考える場面で、Aさんは友だちに、「ほら、食べる時もさ、こうやって持てさ、なんか、生きてる～って感じ。トマトも生きてる～って感じがするじゃん」と、トマトのみずみずしい輝きや、手に持ったときに伝わってきた感触を確かめるように話しました。

うれしそうに自分を物語っていますね。やよいさんの姿を通して、自分が感じたことが思い出されてきているのですね。



0% ~ 100%
までで、
人間みただから
全て(全てののちがあるから)

(Aさんのワークシート)

トマトも人間みたいだから仲間だと感じたAさんは、その後、みんなで、虫や動物や花木など「生きている仲間」を出し合っていく中、その場でたった一言「すべて」と言いました。

そして、「コマユバチは？」と問い返されたAさんは、再び自己と向き合い悩み、トマトが手に伝えてくれたものは、自分と同じように大きく育っていく力で、だから命あるすべてが仲間なんだという答えをさらに確信するように、その後も「仲間です、仲間です」と何度もつぶやいていました。

生命の尊さを「命が育つ力」から自己と向き合い悩み、ハチに対するこれまでの気持ちを乗り越えるだけの価値理解へ向かったAさん。チョウのためにハチは追い払われるのかもしれないが、「仲間」として敬意を払って向き合っていくことでしょう。



授業から学ぶ
(5学年・体育科)
ボール運動
(ベースボール型)



「できる」につながる教師の支援

「できるようになりたい…」とねがった子どもたちが、効率よく、確実に力を伸ばしていくためには、ねがいの実現に寄り添った教師の支援が欠かせません。限られた時間の中で、子どもたちの「できる」につなげていったT先生の支援から学びます。

1 ねがいを把握し、場を準備する

T先生は、子どもたちの「遠くへ飛ばして得点したい」というねがいを受け、スムーズに追究が進むように、2つの手立て(支援)を用意しました。子どもたちは、「これなら強く打てそう」「早くやりたい」と、見通しと意欲をもって練習に入りました。



壁の方向

↑ペットボトルの上下を切り取ったものをカラーコーンの上部にはめ、その上にのせたボールを打つ。

↓紙を丸め、ガムテープで覆ったボールを複数個準備する。

2 たくさんのボールを打つために

子どもたちが練習する時間をたくさん確保できるように、

- ①ペットボトルを使った手作りティーを準備
- ②手作りボールをたくさん準備
- ③壁に向かって打つようにして、ボール回収の時間を短縮などの手立てを子どもと一緒に考えて取り組みました。

結果、Aさんはいつもの何倍も打撃練習ができました。T先生は、Aさんの打球の速さや角度を見ながら「ナイスバッティング」「これなら2塁打も打てるぞ」と声をかけて、Aさんのできた姿を認め、励ましていました。



3 ボールを遠くに(強く)打つために

ただ闇雲にバットを振っても遠くには飛びません。力をしっかりと溜めて打つことができるように、A先生は、古タイヤを活用しました。(右写真)前に鉄棒があると下半身が固定され、軸足に力を溜めることができ強く打つことにつながります。

Aさんは、仲間から「バットの太いところで強く」「振るときはタイヤの真ん中をねらって一気に」とアドバイスをもらい、強く打つことを意識しました。すると、次第に打つ音が重く響きわたり、Aさんも仲間も技能の高まりを感じるようになりました。



鉄棒に取り付けた古タイヤに向かって強く打つ。鉄棒があるので、軸足が固定され体がぶれない

Aさんは、ティーの上にあるボールと自分の距離や位置を調節しながら、何度もボール近くまでバットを振ってバットの軌道を確認し、打席に臨みました。そして、見事に3塁打を打つことができたのです！3塁にたどり着いたときのAさんのガッツポーズが「自分の思うようにできた」ことを実感した瞬間でした。

子どもたちのねがいを把握し、子どもたちの追究を支える支援を講じること。つまり、「ねがい」と「支援」が合致したときに、子どもは手応えを感じ取り、自分を伸ばしていくのです。こうした子どものねがいに寄り添った授業の積み重ねが子どもたちの「できる」につながっていくのだとT先生の授業が教えてくれました。



研修の窓



実践を振り返る 仲間から学ぶ ～初任研 教師力向上研修Ⅲ～

初任者同士が取組を発表し合い、自己課題や学級づくりを振り返って見直しをもつ会になりました。そこでは、身を乗り出して互いの取り組みを聞き合う姿が見られました。

困難やつまずきから具体的な支援へ

どの子どもにもあり得る困難さやつまずきに対する具体的な支援について、日頃の支援を振り返り、意見交換しました。キーワードは「困っているのは子ども」。どんなことに困っていて、その子に合った支援は何かを考えることの大切さを共有していました。

子どもの目線に立ち、子どもの声に耳を傾けることは、誰もが心がけたいことです。



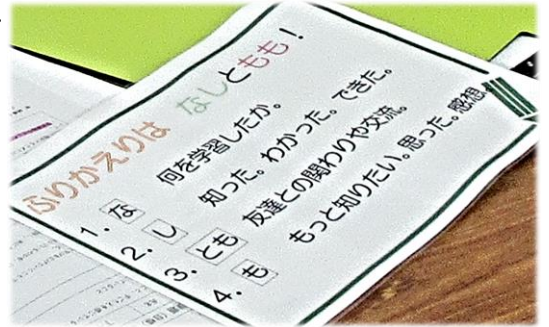
【初任者の声】

子どもの行動には必ず理由があり、その理由は一体どこから生じているのか、また、その捉えは正しいのか、常に考えていきたい。そのためには、日々の子どもの見取りから、子どもの変化を大切にしていきたい。

自己課題への取組を振り返り、次の実践へ

年度当初に立てた自己課題に基づき、次の一步について考え合いました。自分の実践を、体を乗り出して、身振り手振りで説明。「子どもたちが、夢中になって取り組んでいたんです」と、熱く語っていました。

やり取りの様子から、「子どもの輝く姿」を思い描いて授業づくりをしたいと願っていることを強く感じました。



【初任者の声】

いつも振り返りについて、どのようなことを書かせたらよいのかを悩んでいた。話し合いを通して、具体的な方法を学ぶことができ、すぐにでも実践してみたい。

A先生は、「振り返りなしともも」何を学習したか、知った、わかった、できた、とも友との関わりや交流、もっと知りたい、思った、感想です。

学級づくりにおける情報交換



担当している学級のこと、頑張っていること、困っていることなど、奮闘している様子を赤裸々に語り合いました。B先生は、クラスにいる不登校の子どもに対して寄り添いながら粘り強い関わりを継続し、よい兆しが見えてきていると話していました。

どの先生の表情も生き生きと輝いていて、きっとそれぞれの学校で充実した学級づくりが行われているのだろうと想像することができ、たくましさを感じました。

【初任者の声】

いろんな先生の話聞いて、一番は「子どものため」を考えて、自分に何が出来るか、子どもが求めているものは何かを常に考えたいと思った。



【初任者の声】

子どもを見る視点を少し変えてみることで、関わり方も変わってくると思ったので、実践してみたい。

機をとらえて振り返ったり、いろいろな人からアドバイスをもらったりすることは、初任者に限らず大切なことですね。今回の研修での姿のように、常に謙虚な姿勢を忘れずに、学び続ける教師であってほしいと心から願っています。



考える
部屋

子どもの声を聞き取って 「学習問題」を設定しましょう

佐久市では「学習問題」を子どもたちの発した言葉から疑問形で示すことに取り組んでいます。子どもの発する言葉から学習問題を設定する意味を、実際の授業から考えてみましょう。

💡 T先生は、晴れた日の午前と午後
に影ふみ遊びをした時の写真を提示しました。

小学校
第3学年
理科

授業のねらい：日陰の位置は太陽の位置の
変化によって変わること理解する。



T先生：これは、昨日の1時間目と5時間目に行った影ふみ遊びをした時に、同じ場所から撮った写真です。この写真を見て、何か気づいたことはありますか？

Aさん：影の向きが違う！

Bさん：本当だ！ 違う！ **何で影の向きがちがっているのかな？**

T先生：違いによく気づいたね。確かに影の向きが違うね。

1時間目と5時間目で違っていったことは何か？

Cさん：時間！ **時間がたつと影の向きが変わるのかな？**

Dさん：時間がたつと、**太陽があるところも変わるよ。**

Eさん：**太陽のあるところが変わると、影の向きが変わるのかな？**

T先生：**太陽**という言葉が出てきたね。

太陽とかげの向き、関係があるのかな？

Aさん：くもっているときには影ができないから、関係あると思う。



T先生は、子どもたちの声を丁寧に聞き取って整理し、この時間にみんな考えてみたいことを、次のような学習問題にまとめて示しました。

学習問題

太陽のあるところが変わると、
できるかげの向きも
変わるのだろうか？



T先生は子どもたちが意識し始めた「太陽」「あるところ（位置）」「向き」という言葉を取り上げ、上手に整理して太陽とかげの位置関係について追究ができるように学習問題を設定しています。子どもたちはこの言葉をキーワードとして意欲的に学習をスタートさせることができました。

💡 「学習問題を子どもの発する声から疑問形で」に取り組む先生方の声

学習問題を毎時間、疑問形にするのはなかなか大変ですが、「なぜだろう」「考えてみたい」といった生徒の思いを引き出すことを大切に考えてようになりました。

教師から与えた問題と、子どもたちの言葉からつくられた問題では、子どもたちの取組む姿が違う感じがします。自分たちでつくった問題の方が意欲的に取り組んでいると感じています。

「学習問題」を子どもの発した言葉から疑問形で示すことは、子どもたちの「～したい」「～について調べてみたい・考えてみたい」という追究意欲を高めるための方法の一つです。これは大変重要な教師の支援です。毎日の授業で、また、いろいろな教科でこれを継続していくことで、子どもの学びも変わっていくことでしょう。

ぜひ、参考にして実践してみてください。



信州“Basic”には授業づくりのポイントが掲載されています。QRカードからご覧ください。

考える 部屋

みること 捉えること

先日の初任者研修において、4月からの半年の実践を振り返ったA先生の思いです。



小学校 A先生

半年を振り返ったとき、改めて、子どものありのままの姿を認めていくことが一番だと思いました。その中で、少しずつできるようになったことを、そのとき、そのときにみとり、気づき、褒めていける教師でありたいと感じました。

A先生の言葉から、「子ども一人一人のよいところを見つけて、褒めることや認めることが大事だよ」という先輩の先生の言葉が思い浮かびました。皆さんはいかがでしょう。



褒めること 認めること

それでは、褒めるとき基準、認めるとき基準という視点で考えてみましょう。皆さんはどのような基準で子どもを褒めたり認めたりしていますか。

褒める基準、認める基準を確認していきましょう。

大人が子どもを「褒める」とき

一般に大人の基準で
「褒める」ことが多い

⇒大人側の基準で一定の水準に達した、水準を超えたと評価するのが「褒める」という行為

子どもが「認めてもらいたい」とき

一般に子どもの基準で
「褒められたい」

⇒子どもなりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」



例えば、授業場面では、単に良かった、悪かったと評価するだけの褒めるではなく、子ども自身が目標や工夫点等を考え、その子の基準に沿ってどこまで達成できたかをみとり、先生が認めることが大事となります。



文部科学省 国立教育政策研究所

『生徒指導リーフ「自尊感情」?それとも「自己有用感」? Leaf.18』をもとに作成

詳しくはこちら

私たち教師が何気なく投げかけている言葉は、子どもに大きく影響を及ぼすことがあります。子どもの目線で、目標や願い、思いを捉えてから投げかけると、言葉がけも変化するのではないのでしょうか。



つながりを広げるヒント

～学校と連携した長野県長寿社会開発センターの活動～

コミュニティスクールの活動を充実させるために、外部の人との連携を図りたいけど、人材をみつけるのに困ることはありませんか？

長野県長寿社会開発センターでは、シニア大学を運営して、多彩な講座を設けています。これは、シニア世代が社会参加活動のきっかけをつかみ、地域社会の一員としての自覚をもって地域と関わることができるよう支援するためです。

また、シニア活動推進コーディネーターが公民館、シニア大学、商工団体、学校など地域の関係機関の連携・協働を仕掛け、シニア世代の社会参加を手伝っています。

シニア大学の講座内容の一例

○書道 ○絵手紙 ○ちぎり絵 ○手芸 ○野鳥 ○篆刻 ○写真 ○俳句 ○川柳

シニア活動推進コーディネーターによるシニア大学と学校などの連携事例



住みやすい地域を創出する葉ぼたんプランター設置

花を中心とした活動を通して地域に関わる人の思いを共有し、住みやすい心通い合う地域の創出を目指す企画です。

歴史街道を歩こう会（シニア大学佐久学部卒業生）は、社会参加活動の一環として年1回ゴミ拾いウォーキングを開催してきました。「今年度も実施したい」との相談がセンターにあり、コーディネーターはある地域でのゴミ拾いウォーキングを提案するため、地域の情報を集めました。

【地域住民の声】地域のA小学校は従来から花を育てて商店街にプランターを置いていたよ。ゴミ拾いウォーキングだけでなく地域を盛り上げる活動にしてほしいな。

【A小学校の声】6年生が1年間「感謝」をテーマに活動を進めています。地域に感謝の思いを伝えられる活動にしたい。

コーディネーターは地域の声を聞き、ごみ拾い活動だけでなく、葉ぼたんのプランターを商店街に設置する活動を計画しました。小学生、高校生、町商工会、地域住民、市役所、交番、シニア大学卒業生など様々な人が一緒になって、葉ぼたんの種まきや育苗、プランターの設置、ごみ拾いウォーキングを行いました。



笑顔と思いやりと安心を届けるシトラスリボンプロジェクト

リボンづくりをしながら様々な差別や偏見を防ぎ、心身ともに安心した暮らしを続けられる地域を目指す活動です。

手芸グループにリボンの作成キットを作ってもらい、新型コロナウイルスによる差別や誹謗中傷を防ぐシトラスリボンプロジェクトの趣旨に賛同する学校、企業、一般の方に作成キットを渡してリボンをつくってもらいました。自分の大切な人に渡したり、メッセージと共に医療従事者に渡したりして感謝の気持ちを伝えました。



元気や希望を共有する絵手紙作品展

絵手紙を通じて相互につながり、日常を支えてくださっている方々に感謝の想いを伝えようという企画です。

学校での絵手紙や塗り絵体験教室で2枚の絵手紙を作成し、1枚は自分の大切な人へ渡しました。もう1枚を集めて医療関連施設を中心に展示し、感謝や元気を医療従事者へ届けました。

シニア活動推進コーディネーターは、活動のニーズに合わせて関連する団体を結び付け、相談者と一緒に考えて、地域活動を支援しています。シニア世代との交流等関心がありましたら佐久・上田保健福祉事務所内の長野県長寿開発センターにお問い合わせください。